

2020年度 第 1 回 観察会 記録

| | | |
|------|---------------------------------|----------|
| 日 時 | 2 0 2 0 . 1 1 . 6 日 (金)、7 日 (土) | |
| 観察地 | 京都市右京区京北鳥井町、大野町、井戸町、南丹市日吉町 | |
| 講 師 | 京都大学名誉教授 田中 克先生、河原林 成吏氏、西山 史一氏 | |
| テー マ | 京都市右京区京北 山国の歴史と自然と暮らし | |
| 備 考 | 参加者 35名 (田中先生、スタッフ飯田・今津含む) | 記録 今津 富枝 |

はじめに

2020年度、新型コロナウイルス感染拡大のあおりを受け、計画した観察会は全て中止となりました。夏以降コロナの動きが少し読めるようになり、必要な防御策を講じた上で、近郊の日帰り観察会を実施出来ないかと模索していたところ、田中先生から茅葺屋根の文化が保全されている京北と河原林邸を勧められました。同家に下宿する西山一史氏に協力していた

だき2日にわたり、2グループが京北観察会を実施しました。

田中克先生は今回の観察会の狙いを次のように紹介されました。

「平安遷都以来皇室との関係を大切にして暮らしてきた山国の人々は、茅葺の家に住む河原林さんの里山暮らしのお話は“伝統回帰”を学ぶ良い機会です。含蓄のあるお話を是非楽しみにしてください。西山さんは昨年より河原林さん宅にお住まいでの、持続可能な循環的町づくりの取り組みをされてます。」

1. 山国神社 (説明 西谷史一さん)

古い歴史のある山国氏神様で、延喜式内社で主祭神は大己貴命(大国主命)です。794年(延暦13年)の平安遷都に際し木材を山国材より運ぶことになり、宝亀年間(770年-780年)に本殿を造営し、和氣清麻呂が祭主として奉仕したと伝わっています。

天皇とのつながりが深く、山国は明治になるまで禁裏御料地でした。第50代桓武天皇が平安遷都(794年)に当たり、大内裏造営の木材を山国(現在の山国、黒田、広河原、花背地域)から伐採、筏に組んで桂川で運ぶことになり、都より36人の官吏が山国に送られてきました。この人々は代々山国に住み、山国の祖先といわれます。

天皇が即位する大嘗祭で、東(左)悠紀、西(右)主基殿の2ヶ所の祭場として茅葺屋根の建物を設け、その用材は山国から送られました。ところが今度の大嘗祭では茅葺から板葺きに変更され、大変残念です。

この地の人々は自然の恵みの天然アユや松茸を天皇に献上することを誇りとし、現在もその心を持続けています。



2. 山国隊

幕末、山国の農民が志願して天皇家のために「山国隊」が結成され、鳥取藩と共に鳥羽伏見の戦いや戊辰戦争で戦い、戊辰戦争が終わるとふるさと山国へ凱旋しました。1895年遷都1100年を記念して創建された平安神宮の第1回の時代祭に山国隊が参加しています。大正7年頃までの25年間先頭で行進しましたが、現在は維新勤皇山国隊と名称を変え、軽費もかかるので参加していませんが、例年10月第2日曜日、山国神社の秋祭り還幸祭で「山国隊軍楽保存会」が鼓笛を演奏、村を行進し、昔をし

のんでいます。今年はコロナ禍で行われませんでしたが、是非一度見に来てください。

3. 常照皇寺

元は光厳上皇がこの地の無住寺を改修し開いた寺院で、臨済宗天龍寺派に属する禅宗寺院のこと。

山門、勅額門、勅使門と続く長い階段を上の風景は赤や黄色の紅葉と緑の木々が美しく映え、静寂な空気の中に落ち着いた風情を感じました。重要文化財 木造阿弥陀如来及び両脇侍像、開山堂には二十余体の像が安置されていました。



自然を庭に見立て山全体を万樹林と名付け、滝や周囲の紅葉をいつまでも眺めて居たい気分になりました。庭園には国の天然記念物の「九重桜」、御所より枝分けした「左近の桜」などの銘木があり、サクラの時期は多くの観光客でにぎわうそうです。

上皇は2年後に亡くなられ、寺の裏山の山国稜に祀られています。

光厳上皇は納豆が好物で、この地に納豆を食べる習慣があるのはそのためという説があるそうで、京北の「納豆餅」発祥の由来になったのでしょうか。

4. 河原林邸

当主は20代目河原林 成吏氏。京北の中でも最も古い茅葺の家に今もお住まいです。門を入ると京地鶏が数羽「コケコッコー」と出迎えてくれました。屋根上の千木は9本あり常照皇寺と同じ数で菊の御紋の瓦もあり、格調の高さを感じます。

玄関を入れると土間に釜戸が置かれ、座敷には八角型の囲炉裏に薪が燃え、優しいぬくもりと煙の香りが漂っていました。



【昼食休憩】

11月6日：秋晴の好天に恵まれ、川沿いの土手で太陽を一杯に浴びお弁当を広げる人もあれば、近くの蕎麦屋（山稜汀）で、そばを楽しむ人もあり。

11月7日：生憎の小雨模様なので河原林邸の座敷や囲炉裏端、あるいは蕎麦屋、バスの中でと、思い思いの場所で昼食をしました。

5. 河原林 成吏さんのお話

(1) 天皇家との繋がり

京の都をつくるため784年に都から3官吏6名が山国に派遣されてきました。当時は現代のような機械や道具がない時代ですので、木材を都に運ぶには、水利用の少ない冬場に川の水を堰止めで筏を浮かべ、堰を切って勢いをつけ、下流へと流したのです。

木材は筏で三条まで流し、高瀬川で小分けし堀川へ流したそうです。丸太町、千本通りには材木店が多くあり、丸太町、千本通りの名前はこれに因むといいます。山国の木材は建築材料として優れ、需要が多かったのです。



講師 河原林さん

皇室との繋がりのお陰で山国の人々は仕事もあり税・年貢は米・炭で納めていました。天皇家には桂川のアユを室町時代から明治まで350年間献上していました。当時はアユを桶に入れて天秤棒で担ぎ、夕方から提灯の明かりで12時間かけ御所まで運んだそうです。

その先人の苦労を体験するイベントを宮内庁の協力を得て行ないましたが、まことに大変でした。この大変な作業を350年も続けたのは、山国の人びとの天皇家への崇敬を現すものと思えます。明治になって天皇が東京に移り、献上はなくなりました。

(2) 茅葺屋根の住居

茅葺の家で暮らしていると、茅の持つ力でマスクをせずともコロナウイルスに感染することはなく、茅の菌がコロナを寄せつけないと医学的に証明されているわけではないが、そのように感じています。鶏は普通は予防ワクチンを投与するがここではそれをせず、受精卵を孵してヒヨコの時から庭で飼い、自然な環境の中で成長していきます。したがって肉質が格段によくなり、食べるとその美味さは忘れることができません。是非食べにお出でください。



茅葺屋根の河原林家

人も密閉した所での生活は体にとって良くない、自然な環境の中で暮らしていると病気への抵抗力が高まり、マスクやワクチンがなくてもコロナに負けない強い体づくりができると思っています。茅葺屋根についてたくさんお話したいことがあります、茅は西山さんが勉強し論文を作成中であり、一生懸命取り組んでいますので、彼の話を聞きください。

(3) 犯土(つち)について

大犯土、小犯土という言葉を河原林さんから聞きました。土の中に「土公神」という土の神様がいる間は、土を掘ったり種蒔きなどして安静を妨げるとお怒りになり、よくないことが起こるので土いじりはしないことにしていることです。これを無視し、例えば竹を伐ってしばらくすると中から虫に食われて使えなくなるということを実際に経験していると話されました。

六十干支のうち庚午（かのえうま）の日から丙子（ひのえね）の日までの7日間を大犯土といい、1日間をおいて戊寅（つちのえとら）の日から甲申（きのえさる）の日までの7日間を小犯土というそうで、60日ごとに巡ってきます。犯土の間は、土堀り、穴掘り、建墓、種まきなど土を犯す行為はすべて慎まなければならないとされ、きちんと守るようにしていることです。

この期間は樹木の成長にとって低調な時期に当たり、この時期に樹木を伐採すると、材木に虫が入りやすく腐りやすいそうで、陰陽5行説のなかに取り入れ、行動を戒めた昔の人の知恵と思われます。

6. 西山 史一さんのお話

(1) 自己紹介

福島県浪江町に生まれ、幼少時代を過ごしました。幼い時から建築に興味を持ち大学院卒業後、ドイツに留学しました。建築、不動産関係の仕事に携わりながら、自然の循環、エネルギーの循環等社会の在り方に疑問を感じ、日本人の暮らしを考えるようになり、1年前から河原林さん宅に下宿させていただき現在に至っています。



講師 西山史一さん

(2) 茅葺屋根の家

茅葺屋根の家はイギリス、ドイツ、フランス、イタリアなど世界中があり、不動産価値も日本とは差があり10億円もするものもあります。日本でも北海道から奄美大島までに茅葺住宅があります。美山には40軒の茅葺屋根の家がありますが、囲炉裏があるのは2~3軒で、しかも観光用です。

河原林家は囲炉裏を設け、日常生活の中で使われており、このような例はほとんどなく、貴重な存在です。昨年11月に茅の南側半面を取り換えました。茅は20年分を屋根裏に保存し、囲炉裏の煙でいぶし、中にいる虫を殺し、屋根材として長期間使用できるようになります。

京北には10年前までは38軒あったが、今は30軒と少くなりました。トタン板で覆う家があるが、5~10年ごとに塗装が必要です。茅葺屋根で数十年使用した古い茅は畑の肥料になり、自然循環型の建築材料ですが、銅板は産業廃棄物になるところが大きな違いです。

茅場は毎年きれいに全て刈り取り、新旧が混じらないようにして茅の品質を保持します。春の新芽は一部は鹿の食料にもなり、人との共生に役立ちます。

茅葺屋根に使用する茅の種類は地域により異なります。茅はできるだけ細いものを使用するのが、雨漏りを防ぎやすいです。茅の種類と特徴は次のとおりです。

種類：カヤ、ススキ、スキヤス、ヨシ、スゲ、オギ、イタチガヤ、カリヤス

特徴：根が1m位でしっかりと根を張るので土砂災害を防ぎ、土壤を浄化する。保水力がある。

抗菌作用あり、アレルギーやウイルスにも効果があるらしい。

京北は京都市街地から約1時間の至便な位置にあり、里山の資源を大切に守り、自然と共生し、循環型の林業、農業で活かせるものを活かし、生活出来る特別な地域であると話されました。

7-1. 11月6日：茅刈り体験

河原林邸から車で約10分ほどの距離にある茅場に移動し、茅を刈り取り収穫作業を体験した。軍手をつけ、草刈鎌を持ち、河原林さんの説明を聞き、茅の根元から切取り、つる草などは取り除き、太もも程の大きさの束にして稻わらで縛ることを約1時間行いました。皆さん初めてにしては慣れた手つきでどんどん束ができました。全部まとめてライトバンで持ち帰り、河原林邸近くの田んぼに三角錐状に立掛けて来春まで乾燥させること。7日にみると2錐が新たに加わっていました。

茅刈後、バスに乗車し道の駅 京北ウッディー経由 JR京都駅に向かい、事故なく予定を終了しました。

7-2. 11月7日：日吉ダム見学

朝からの小糠雨は一時止んでいたが午後2時半ごろやや強く降るようになり、茅刈は無理とあきらめて、急遽雨の場合に予定した「日吉ダム」見学に切り替えました。

ダムガイドマップによると、日吉ダムは、桂川の



上流、南丹市に治水（亀岡市など下流域の洪水被害を防ぐ）、利水（農業用水など）上水道用（京都府下、阪神地区）多目的ダムとして水資源機構が1972年に着工し、1997年に完工した重力式コンクリートダムで、貯水池の広さは甲子園球場の約70個分（2.74平方キロメートル）、貯められる水の量は東京ドームの約53杯分（6,600万立方メートル）とのこと。このダムの特色は、早くからダムによる地域振興を目指し、観光地としての価値をダムに持たせ地域振興に寄与することを目的に、ダムの積極的な一般開放を目指して「地域に開かれたダム」施策を実施したという。日吉ダムはその第1号に指定され、年間87万人の利用者が訪れ、多くの市民が利用する公共施設となり全国的に無駄な施設が問題視されている中の成功例

とのこと。

防災資料館やインフォギャラリーで水の恩恵や脅威など水に関する知識や日吉ダムのことを学べるようになっています。今回あまり時間がなく大急ぎでの見学であったが、ダム問題を考えるときに、日吉ダムの事例を学習しておくことは意義があるのでと思いました。

観察会を終えて感想

京北の観察会は一日目は秋晴れと気持ちのよい日でした。2日目は小雨でしたが、山々が霧に煙り幻想的で趣のある景観となり、二日とも里山の美しい景観を存分に楽しみました。

京北の人びとが桓武天皇以来の皇室との繋がりや、光厳天皇にお仕えしたことを村の名誉、誇りにしていることは単に回顧趣味ではなく、村の共同体としての一体感を作る糸になっているように思われました。また河原林さんからお聞きしたいいろいろなお話は、目先の便利さを追いかけるのではなく、先人の知恵と工夫を私たちは学び直すことで、SDGsの具体的な形が見えてくるのではとも思いました。

以上